

イチゴ減農薬減化学肥料栽培推進協議会（三重県津市）

R3補正
R4当初

28

背景・課題

津管内では32戸488a（令和3年度）がイチゴ栽培を行い、市場出荷や直売、観光イチゴ狩り園等を行っている。協議会に参加する「Fragaria farm」は平成30年度にイチゴ苗の高濃度炭酸ガス処理によるハダニ防除に取り組み、防除効果が優れたことから令和3年度には取組が6戸92aに拡大した。この取組をさらに進めるなか、販売先からの要望があった有機JAS適合資材を用いたイチゴ高設栽培について、県内にはない地域モデルとなるイチゴ高設栽培における減農薬・減化学肥料栽培の確立に向けて取り組んだ。

成果目標と達成状況

- 化学肥料から発酵ボカシ肥料、有機液肥等へ変更し、有機質資材施用による土づくりの実証
- 紫外光照射によるうどんこ病の防除農薬散布回数の削減
- ベット紙マルチ被覆による微生物培養で農薬の使用量減に取組み、栽培マニュアルを作成

取組の成果

- 高設栽培における発酵ぼかし肥料及び有機液肥による栽培が可能であることが確認されたが、初期生育がやや弱く、収量面で慣行区の80%となったこと、かん水チューブのつまりが発生したことが課題である。
- 夏季に紙マルチ被覆を行い、直射日光と乾燥を防ぎ、微生物の繁殖を促した。
- 紫外光照射を行ったことで、うどんこ病の発生はなく、省力化につながった。



有機質資材施用による土づくり



紫外光照射ライト設置



紙マルチ被覆による微生物繁殖条件向上

普及に向けた取組

慣行区と同等の収量実現に向けて、有機質資材の施用時期、施用量、かん水チューブの変更など改善策に取り組む。今後、技術マニュアルを作成し、関心のある農家に技術紹介を行う。



津市

構成員

Fragaria farm（平松香歩里氏、平松孝之氏）、三重県津地域農業改良普及センター

品目

いちご（施設高設栽培）

栽培マニュアル・産地戦略

三重県 | 農業改良普及センター：グリーンな栽培体系への転換サポート事業



<https://www.pref.mie.lg.jp/TNOR/IN/HP/m0121200081.htm>



実証区(11/28) | 一番果房肥大中
省力化につながった。

問い合わせ先

三重県津地域農業改良普及センター

TEL：059-223-5103、FAX：059-223-5151